

研究拠点形成事業 平成29年度 実施計画書

A. 先端拠点形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	東京大学東洋文化研究所
アメリカ拠点機関：	プリンストン大学
フランス拠点機関：	社会科学高等研究院
ドイツ拠点機関：	ベルリン・フンボルト大学

2. 研究交流課題名

(和文)： 新しい世界史/グローバル・ヒストリー共同研究拠点の構築
(交流分野： 歴史学)

(英文)： Global History Collaborative
(交流分野： History)

研究交流課題に係るホームページ：<http://coretocore.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

3. 採用期間

平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日
(4年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：東京大学東洋文化研究所

実施組織代表者（所属部局・職・氏名）：東洋文化研究所・所長・榊屋友子

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：東洋文化研究所・教授・羽田正

協力機関：

事務組織：東京大学東洋文化研究所事務部

相手国側実施組織（拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。）

(1) 国名：アメリカ合衆国

拠点機関：(英文) Princeton University

(和文) プリンストン大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文) Department of History, Professor,
Jeremy ADELMAN

協力機関：(英文)

(和文)

経費負担区分 (A型)：パターン1

(2) 国名：フランス共和国

拠点機関：(英文) Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales

(和文) 社会科学高等研究院

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Research Centre for History, Professor,
Alessandro STANZIANI

協力機関：(英文)

(和文)

経費負担区分(A型)：パターン1

(3) 国名：ドイツ連邦共和国

拠点機関：(英文) Berlin Humboldt University

(和文) ベルリン・フンボルト大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Institute of Asian and African Studies,
Professor, Andreas ECKERT

協力機関：(英文) Berlin Free University

(和文) ベルリン自由大学

経費負担区分(A型)：パターン1

5. 全期間を通じた研究交流目標

1. 新しい世界史理解と叙述の探求と確立：従来、世界各地における世界史の見方は、ヨーロッパ中心史観を下敷きとするという点では共通点を持ちながらも、国や地域によって多様だった。この多様な世界史の見方を拠点間で相互に参照・批判するとともに、現代世界において必要な地球への帰属意識(地球市民意識)を共有できる新しい世界史の理解と叙述の方法を、拠点間の議論を通じて探求し確立する。

2. ミクロな歴史研究との交流：新しい世界史研究の成果を、一国史や地域史などミクロ・レベルの歴史の研究者に投げかけて当該研究領域における既存の知の再検討を促す。また、その再検討結果を新しい世界史の解釈に活用する。この相互往復運動の繰り返しによって、歴史研究全体の活性化を図る。

3. 上記2つの大目標を達成するために、4研究機関が緊密に連携し、新しい世界史研究と教育のためのネットワーク型拠点を構築する。このネットワークによって実現を図る主な事業は次のとおりである。

①研究者の交流：毎年一定数の研究者、PDを他の3拠点機関に派遣し、同時に3拠点機関から研究者を受け入れる。派遣・受け入れ研究者は、派遣先・受け入れ先で講演や授業を行い、国際共同研究に参画する。

②①と連動させる形で、毎年いずれかの拠点機関でテーマを定めた研究集会とセミナーを開催する。

③毎夏、いずれかの拠点機関で公開サマースクールを開講し、4拠点機関の大学院学生を中心に広く世界の若手研究者に世界史学習と研究交流の場を提供する。また、博士論文を準備中の大学

院生に対して、4拠点機関の研究者からなる指導チームを編成し、より完成度の高い論文が執筆できるように共同で指導する。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

世界史／グローバル・ヒストリー共同研究のための国際教育研究ネットワーク設立から3年目を迎え、目標達成のための教育研究交流活動は、きわめて順調に展開された。4拠点の交流深化を図るための主なイベントとして、4拠点共同で「資史料」に関するセミナー（東京、2017年1月）と大学院学生のためのサマースクール（プリンストン、2016年5月）を開催した。プリンストン大学との間では、新たに2大学間でのウィンタースクール（東京、2017年1月）も開始した。また、ネットワークを4つの拠点以外にも拡大する試みとして、チリの研究者との間でのグローバル・ヒストリーに関する国際ワークショップ（サンチャゴ、2016年11月）と「外交」を具体的なトピックとし、25人もの報告者を迎えた国際ワークショップ（東京、2016年12月）を催し、上記4拠点によるセミナーには、復旦大学（中国）の研究者2名を招いた。これらの活動を通じて、4拠点の交流責任者の間では、問題意識の共有が進み、次年度以後の具体的な共同研究の計画が進んだ。

若手研究者の育成については、ポスドク1名をベルリン、大学院学生2名をプリンストンに派遣した。大学院学生2名は、プリンストン拠点のAdelman教授のセミナーに出席し、その指導の下で博士論文の執筆を進めた。

既存の歴史学研究との交流という面では、国内での研究会やセミナーを合計7回開催し、特に日本史研究者との間での意識の共有に努めた。

7. 平成29年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

これまでの事業を通じて形成された4拠点間の相互理解と協力関係をさらに深化させ、安定的な教育研究協力体制を構築する。そのために、テーマを定めた新たな共同研究を目指す4拠点共同のセミナーやサマースクールを開催する。また、ネットワークの充実と拡大を目指し、世界各地で活動しているグローバル・ヒストリー研究者との連携を図る。具体的には、中国の大学における講演と学术交流や、海外3拠点以外の研究者との共催ワークショップ、海外3拠点以外の研究者の参加するワークショップの開催などを考えている。

<学術的観点>

4拠点の研究者が執筆したグローバル・ヒストリーに関する論文集『グローバル・ヒストリーの可能性』を日本語で刊行する。また、“national(ist) histories of globalization or world-making”を共同研究の新たなテーマとして設定し、グローバル化する世界を背景に、世界各地で国民史がどのように形成されてきたのかについて、共通の理解を得るための事例を報告するセミナーを、ベルリンとプリンストンで開催する。また、その成果を論文集として公表する準備を進める。

<若手研究者育成>

第3回4拠点共同サマースクールをベルリン・フンボルト大学で開催し、各拠点から参加

する複数の研究者が共同で大学院学生を指導する。第2回東大—プリンストン・ウィントースクールをプリンストン大学で開催する。また、意欲あるPDや大学院学生を1～6か月間海外の拠点に派遣し、知見と視野の拡大、研究テーマに関する海外研究者による指導の機会を与えるとともに、海外3拠点からの若手研究者を東大拠点で受け入れ、双方向の学術交流を進める。

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

日本国内において、新しい世界史/グローバル・ヒストリー的な歴史研究への理解を深め、それを根付かせるための取組を企画し、実行する。上記の論文集刊行はその一環であるが、それ以外にも、協力研究者による講演や研究会、一般向けのインタビューなどを実施する。

8. 平成29年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成26年度	研究終了年度	平成30年度
研究課題名	(和文) 新しい世界史/グローバル・ヒストリー共同研究拠点の構築 (英文) Global History Collaborative				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	(和文) 羽田 正 東京大学東洋文化研究所・教授 (英文) HANEDA Masashi・Professor, Institute for Advanced Studies on Asia・The University of Tokyo				
相手国側代表 者 氏名・所属・ 職	(英文) Jeremy ADELMAN・Professor・Princeton University Alessandro STANZIANI・Professor・EHES Andreas ECKERT・Professor・Berlin Humboldt University				
29年度の 研究交流活動 計画	<p>1. 主要研究者による研究集会の開催 4拠点コーディネーターが集まり、2017年の東京会議以来メールで行ってきた共同研究のテーマについて、直接会ってさらに議論を深める(2017年9月ベルリン)。また、そこで定まったテーマについて、他の参加者も含めて予備的な研究報告を行う(2018年1月プリンストンでの開催を予定)。</p> <p>2. 講演会、国際ワークショップの開催 東京において、来日する他拠点の研究者による講演会を開催する。拠点外機関の研究者も招き、国際ワークショップを開催する。東京圏以外での研究会やセミナーの開催を企画する。</p> <p>現時点での予定は、プリンストン大学ベル教授講演会(於:東京、テーマ未定、東京拠点10名程度参加予定)、グローバルアート・グローバルヒストリーとの対話をテーマとする国際ワークショップ(於:京都、福岡、東京。プリンストンの研究者数名、拠点外海外研究者4～5名、東京拠点から各回10～25名程参加見込み)、都市とジェンダーをテーマとする国際シンポジウム(於:東京、パリ拠点の研究者数名、拠点外海外研究数名、東京拠点</p>				

	<p>から20名程度参加見込み)等。今後随時企画・決定していく。講演会、ワークショップの内容は、ホームページを通じてメンバー間の共有を図る。</p> <p>3. 海外拠点への研究者派遣 東京拠点の研究者を海外3拠点に派遣し、受入れ先で講演や講義を行い国際共同研究に参画する。本年度は、プリンストン2名、ベルリン自由大学2名、パリ1名の派遣を予定。派遣者は、ホームページや東京拠点の研究会において活動、成果報告を行う。</p> <p>4. サマースクールの開催 2017年9月7日～13日、ベルリン・フンボルト大学で4拠点の大学院学生を対象とする第3回サマースクールを開催する。各拠点から、博士論文を執筆中の大学院学生が集まり、グローバル・ヒストリー研究の分野で世界をリードする研究者の指導の下、発表・討議を行う。東京拠点からは4名の大学院学生と、2～3名の研究者を派遣予定。他3拠点からも同程度参加予定。</p> <p>5. 東大-プリンストン・ウィンタースクールの開催 2018年1月25日、プリンストン大学において、プリンストン大学と東京大学の大学院学生を対象とする第2回ウィンタースクールを開催する。参加大学院学生が、広く世界史の文脈に自らの研究を位置づけ、その方法や意義をスクール参加者と一緒に考え、自らの博士論文執筆のヒントを得ることを目的とする。東京大学から大学院学生、研究者各4名程度を派遣予定。プリンストン大学も同程度参加予定</p> <p>6. 海外3拠点からの研究者と大学院学生を受け入れ、双方向の教育研究交流を進める。各拠点1～3名程度を予定。</p> <p>7. 4拠点外の世界のグローバル・ヒストリー研究者との交流を図り、連携を目指す。</p>
<p>29年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果</p>	<p>1. 世界史/グローバル・ヒストリー研究における4拠点間での教育研究交流のさらなる深化と安定的な研究協力体制の構築</p> <p>2. サマースクールや若手研究者派遣と受入を通じて、大学院学生を4拠点の研究者が共同で指導し、次世代の世界レベル研究者を養成すること</p> <p>3. 他の3拠点の指導的な研究者が定期的に日本を訪れ、彼らの存在が日本の歴史学界に刺激を与えること。また、彼らが日本の歴史学界の質の高さと重要性を認識すること</p> <p>4. 本事業に参加している内外の研究者13名が共同で執筆するグローバル・ヒストリーに関する研究書『グローバル・ヒストリーの可能性』を日本語で刊行することにより、日本国内において、この分野の研究の重要性が認識されるようになること</p> <p>5. 一国史の叙述と世界観 (“national(ist) histories of globalization or world-making”) をテーマとする共同研究を推進し、国際的な歴史学研</p>

	<p>究の進展に貢献すること</p> <p>6. 東京圏外での研究会・セミナーの開催により、国内の研究者や研究機関との連携が進むこと</p> <p>7. 4 拠点外の世界の研究者との交流により、グローバル・ヒストリー教育研究ネットワークが充実、拡大すること</p>
--	--

8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	<p>(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「新しい世界史/グローバル・ストーリー共同研究拠点の構築」(一国史の叙述と世界観)</p> <p>(英文) JSPS Core-to-Core Program “Global History Collaborative” “national(ist) histories of globalization or world-making “</p>
開催期間	平成30年1月26日 ~ 平成30年1月27日 (2日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	<p>(和文) アメリカ、プリンストン、プリンストン大学</p> <p>(英文) U.S.A, Princeton, Princeton University</p>
日本側開催責任者 氏名・所属・職	<p>(和文) 羽田正、東京大学東洋文化研究所・教授</p> <p>(英文) HANEDA Masashi・Professor, Institute for Advanced Studies on Asia・The University of Tokyo</p>
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	Jeremy ADELMAN・Professor・Princeton University

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (アメリカ)	
日本 〈人／人日〉	A.	4 / 16	
	B.	0	
アメリカ 〈人／人日〉	A.	10 / 20	
	B.	20	
フランス 〈人／人日〉	A.	2 / 8	
	B.	0	
ドイツ 〈人／人日〉	A.	2 / 8	
	B.	0	

- A. 本事業参加者（参加研究者リストの研究者等）
 B. 一般参加者（参加研究者リスト以外の研究者等）

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

セミナー開催の目的	Global History Collaborative の4つの拠点が共同で取り組む研究テーマ（一国史の叙述と世界観）について、主要な研究者が集まって互いに自らの知見を報告するとともに、情報と意見を交換し、論集出版の可能性について話し合う。
期待される成果	一国史の理解と叙述は、国や言語によって異なるが、その背景には、世界情勢とその国の関係についての「常識」が半ば無意識のうちに織り込まれている。この共同研究によって、世界各地における一国史と世界観の関係を並べて示すことにより、各国における歴史理解と世界観の特徴を明示できる。また、現代世界が必要とする歴史理解と世界観についての展望が得られる。

セミナーの運営組織	共同セミナーは4拠点の持ち回りで開催しており、第4回となる2017年度は、アメリカ拠点のプリンストン大学（コーディネーター：Jeremy ADELMAN）が運営する。		
開催経費 分担内容	日本側	内容	金額
		国内旅費	100,000 円
		外国旅費	1,600,000 円
		その他経費	200,000 円
		不課税取引・非課税取引にかかる消費税	126,000 円
		合計	2,026,000 円
	(アメリカ) 側	内容 その他の経費（会議費他）	
	(フランス) 側	内容 外国旅費	
	(ドイツ) 側	内容 外国旅費	

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

共同研究、セミナー以外の交流（日本国内の交流を含む）計画を記入してください。

所属・職名 派遣者名	派遣時期	訪問先・内容
東京大学総合文化研究 科・博士課程学生 藤本大士	2017年12月～ 2018年3月	ベルリン自由大学・若手研究者派遣プログラムにより「近代日本におけるアメリカ医療宣教の歴史、1859-1945年」に係る調査・研究
東京大学総合文化研究 科・博士課程学生 松尾俊輔	2017年10月～ 2018年3月	ベルリン自由大学・若手研究者派遣プログラムにより「20世紀初頭ウルグアイにおけるスポーツ・国家・グローバリゼーション：YMCA及びIOCの活動に着目して」に係る調査・研究

8-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応

・「この交流計画によって初めて切り開かれたと言えるようなグローバル・ヒストリーの可能性について、具体的な研究テーマを通じて学界に提示していく必要性」の対応として、4拠点の主要な研究者の協議により、新たに具体的な共同研究のテーマ（一国史の叙述と世界観、”national(ist) histories of globalization or world-making”）を定め、共同での取り組みを進める。

・「国内の共同研究参加の東京圏の偏り」の対応として、国内の研究者や研究機関とのより密接な連携を図るため、東京圏以外での研究会やセミナーの開催を企画する。また、東京大学以外の若手研究者の参加を促す。

・「旧被植民地国・発展途上国の研究者・研究機関を取り込む形での事業の拡大展開により、展望が開ける可能性を感じる」との指摘を受け、東アジア・東南アジアの歴史研究者との間での教育研究協力の可能性を探る。今年度は、南京大学での交流を計画している。

9. 平成29年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	アメリカ 〈人/人日〉	フランス 〈人/人日〉	ドイツ 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		6/45 (4/20)	1/4 (0/0)	7/380 (0/0)	14/429 (4/20)
アメリカ 〈人/人日〉	0/0 (4/550)		0/0 (0/0)	0/0 (4/24)	0/0 (8/574)
フランス 〈人/人日〉	0/0 (2/35)	0/0 (2/8)		0/0 (4/20)	0/0 (8/63)
ドイツ 〈人/人日〉	0/0 (2/15)	0/0 (2/8)	0/0 (0/0)		0/0 (4/23)
合計 〈人/人日〉	0/0 (8/600)	6/45 (8/36)	1/4 (0/0)	7/380 (8/44)	14/429 (24/680)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

9-2 国内での交流計画

90/100 〈人/人日〉

10. 平成29年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	1,500,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	12,000,000	
	謝金	200,000	
	備品・消耗品 購入費	130,000	
	その他の経費	1,200,000	
	不課税取引・ 非課税取引に 係る消費税	970,000	
	計	16,000,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		1,600,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		17,600,000	